

稲わらは焼かないで 有効利用しましょう！



- ◆稲わらは燃やせば**公害**、使えば**資源**です。
- ◆肥料・飼料・資材等の価格が高騰しています。
足もとの資源を見直し、フルに活用しませんか？



水田にすき込んだり、堆肥の原料に
使用して土づくりに！

(「すき込み」のポイントは裏面へ)



畑に敷いてマルチ代わりに！



家畜の飼料に！

稲わらの販売・買取希望者のリスト「稲わら流通促進マッチングリスト」
(県庁農林水産部 食の安全・安心推進課HP掲載) もご活用ください。



稲わらの有効利用に関するお問い合わせは・・・

東青地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室 (☎ 017-734-9961)
または、お住まいの市町村・農協へ

稲わら「すき込み」のポイント

稲わらは、毎年すき込むことで、作土が厚くなる、土が軟らかくなる、土壌窒素量が増えるなど、堆肥とほぼ同じ効果が期待できます。

次の注意点を守って、稲わらのすき込みで土づくりに取り組みましょう。

すき込み方法と注意点

- すき込みは秋が基本です。わらの分解を進めるため、稲刈り後、なるべく早くすき込みしましょう。
- すき込み前に、石灰窒素などの腐熟促進剤を散布すると分解が早まります。
- コンバインで細断した稲わらをできるだけムラなく広げ、ロータリーで浅耕するか、プラウですき込みます。
(山盛りのまますき込むと、生育ムラになりやすい。)
- ⚠ 湿田や気象条件の厳しい地域では、稲わらは堆肥にして施用しましょう。

すき込み後の管理

- ① ようりん、ケイ酸質資材などの土づくり肥料を施用し、苦土、マンガンなどを補いましょう。
- ② すき込み年数によって、基肥の窒素量を調節しましょう。

| すき込み年数 | 基肥窒素量 |
|-----------|------------|
| 連用2～3年目まで | 慣行より5～10%増 |
| 連用3～4年目 | 慣行と同量 |
| 連用4～5年目以降 | 慣行より5～10%減 |
- ③ 代かきは、水深を浅めにして稲わらを土中に埋め込みます。
(水深が深いと稲わらが浮き、畦畔沿いに溜まってしまいます。)
- ④ 初期生育の抑制や根腐れを防ぐため、中干し、間断かんがい、溝切りなどで、適度に土に酸素を供給しましょう。

「稲わらふりーでん」を設置しませんか？

「稲わらふりーでん」は、一般住民が稲わらを自由に持ち帰ることのできる田んぼです。稲わらをすき込めない方は、「稲わらふりーでん」に登録して、家庭菜園用などに稲わらを提供してみたいはいかがでしょうか。

青森市内で「稲わらふりーでん」を設置したい方は、
青森市農業政策課（☎0172-62-1176）までご連絡ください。
右の「決め手くんのぼり」を提供します。

また、青森市と東青地域県民局地域農林水産部のホームページで、
ふりーでんの場所を公開します。（農業普及振興室のホームページはこちら）



稲わらは大切な有機資源です! 燃やさずに有効利用しましょう



家畜の敷きわらに



稲わらふりーでん



すき込みで地力アップ



堆肥化

危ない!!



燃やさないで!!



わら焼きの煙は健康に悪影響を及ぼしたり、
交通障害を引き起こす可能性があります。



稲わらのすき込みで土づくり

稲わらは大切な有機資源です。
焼却せず、水田にすき込んで有効に活用しましょう。

すき込みの効果

毎年すき込むことで堆肥とほぼ同等の効果が期待できます。

- ・作土が厚くなる。
- ・土が柔らかくなる。
- ・土中の窒素量が増える。



すき込みの方法

すき込みは稲刈後、早めに行う。

- ・コンバインで細断した稲わらを均一に散らす。
(均一にすき込まないと生育むらになりやすい。)
- ・石灰窒素などの腐熟促進剤を散布すると効果が増す。
- ・プラウ、ロータリーですき込む。

すき込みした水田の管理

1 基肥窒素量

| すき込み年数 | 基肥窒素量の目安(生育に応じて加減する) |
|-----------|-------------------------------------|
| 連用2～3年目まで | 慣行より5～10%増やす (つがるロマンは倒伏しやすいので注意) |
| 連用3～4年目 | 慣行と同量 |
| 連用4～5年目以降 | 慣行から5～10%減らす |

- 2 代かきは水深を浅めにして、稲わらを土中に埋め込むように行う。
- 3 ガスによる根腐れを防ぐため、中干し、溝切り、間断かんがいなどで土中に酸素を補給する。

問合せ先

中南地域県民局地域農林水産部

農業普及振興室 電話 0172-33-2903
 黒石分室 電話 0172-52-4335



稲わらは 使えば資源、燃やせば公害 です!



稲わらは燃やさず、有効利用しましょう



西北地域県民局地域農林水産部

<<稲わらのすき込みで土づくり>>

稲わらは大切な資源です。田んぼの地力を高めて、おいしいお米を生産しましょう！

- すき込み時期は、秋を基本とし、石灰窒素など腐熟促進剤を使用する。
- 春の代かきは、水深を浅めにして、稲わらを土中に埋め込む。

《基肥窒素量の目安》

| すき込み年数 | 基肥窒素量の目安 |
|-----------|--------------|
| 連用2～3年まで | 慣行より5～10%増やす |
| 連用3～4年目 | 慣行施用量と同量 |
| 連用4～5年目以降 | 慣行より5～10%減らす |

- 根腐れを防ぐため、気象条件に応じた適正な水管理や、中干し、溝切りを行い、土に酸素を供給する。
- すき込みをしたほ場では、初期生育はやや劣るが、秋まさりの稲になる。

<<農作業事故に気をつけて>>

忙しくても焦らず、急がず、周囲に気を配って慎重に農作業をしましょう！

- 機械への巻き込まれ防止
 - ・点検・詰まり除去時は必ずエンジンを停止する。
 - ・服装を整え、機械に巻き込まれないようにする。
- 機械の転落・転倒防止
 - ・ほ場の出入りや傾斜地では、特に転落や転倒に注意する。
 - ・トラクターには必ず安全フレーム等を装着する。
 - ・シートベルトやヘルメットも装着する。
- 高所作業中の事故防止
 - ・脚立等は、安定した場所に設置する。
 - ・脚立からは身を乗り出さず、こまめに移動する。
 - ・脚立の天板に上がっての作業はしない。

